

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(令和元年5月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪市 港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

目 次

I 事後調査の概要

- 1. 調査概要 I - 1
- 2. 工事の実施状況 I - 2
- 3. 調査結果の概要 I - 3

II 事後調査結果

- 1. 陸域生態系（鳥類） II - 1

I 事後調査の概要

1. 調査概要

令和元年5月（陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1に、調査地点の位置は図-1に示すとおりである。

なお、「大阪湾新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく調査として令和元年度は令和元年5月、6月、8月、令和2年2月に実施する。

表-1 事後調査の概要（令和元年5月）

埋立地周辺における調査

(1) 陸域生態系（鳥類）表-1

調査項目	調査地点・範囲	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a, b, c, d】	5月7日	4回／年（2年おきに実施） （5月、6月、8月、2月）

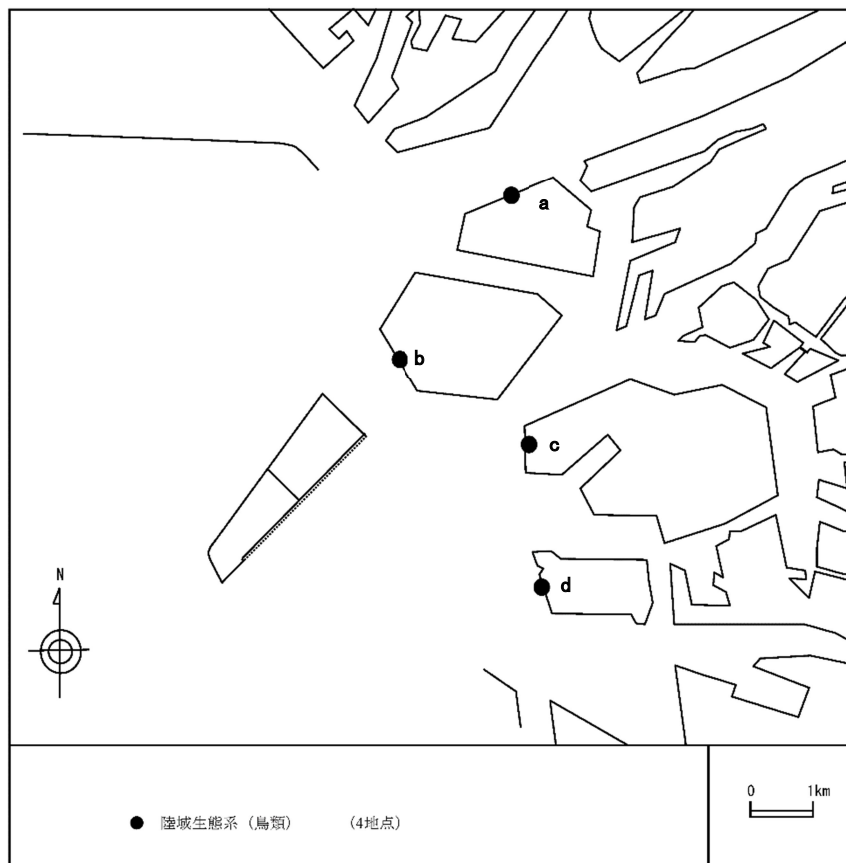


図-1 陸域生態系（鳥類）の調査地点（令和元年5月）

2. 工事の実施状況

令和元年5月の工事の実施状況は、図-2に示すとおりである。

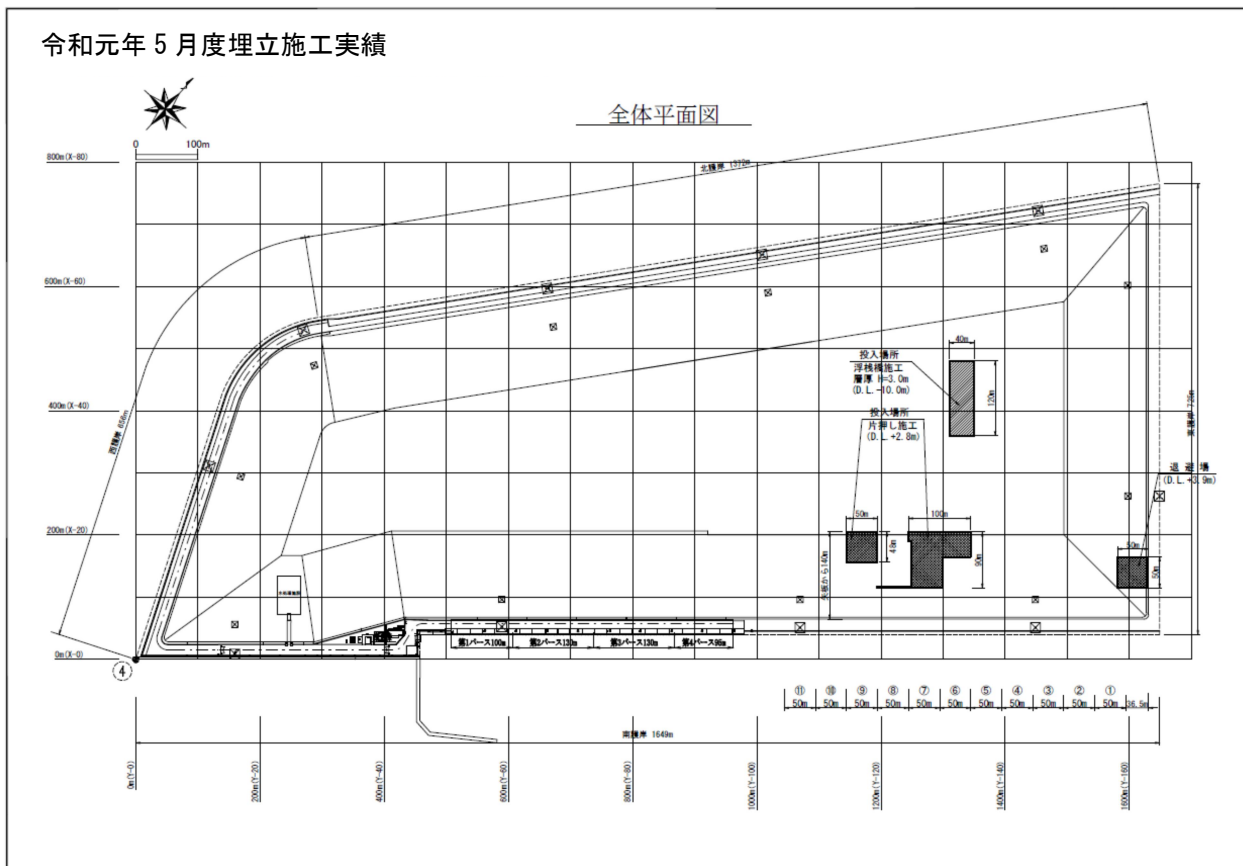


図-2 工事の実施状況 (大阪沖処分場平面図)

3. 調査結果の概要

埋立地周辺における調査

(1) 陸域生態系（鳥類）〔陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）〕

鳥類の出現種類数は、4地点合計で9目19科35種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点bが最も多く229羽であり、次いで調査地点cの145羽、調査地点aの40羽、調査地点dの27羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点cが最も多く18種であり、次いで調査地点bの16種、調査地点aの12種、調査地点dの11種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点bにおける主要な出現種は、コガモ（カモ目カモ科）、ハンビロガモ（カモ目カモ科）、コアジサシ（チドリ目カモメ科）、カルガモ（カモ目カモ科）、キンクロハジロ（カモ目カモ科）であった。

事業実施前（平成10年5月：調査地点の位置は、平成29年度調査の調査地点に同じ）に実施した鳥類調査の結果は、4地点合計で10目21科37種であり、事業実施前と比べて同程度の種類が確認された。

事業実施前調査結果を表-2に示す。

陸域生態系（鳥類）表-2 事業実施前調査結果

区分		平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月			
出現状況	目	8	8	10	9			
	科	18	17	21	19			
	種	35	37	37	26			
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ	(35.4%)	ヒドリガモ	(18.1%)	トウネン	(32.2%)	ムクドリ	(42.6%)
	トウネン	(27.2%)	ホシハジロ	(11.0%)	コアジサシ	(8.4%)	スズメ	(12.3%)
	カワウ	(8.8%)	キンクロハジロ	(7.6%)	シロチドリ	(7.3%)	ツバメ	(12.3%)
	カルガモ	(7.1%)	カワウ	(6.1%)	アジサシ	(4.5%)	コアジサシ	(9.6%)
	スズメ	(4.5%)	スズメ	(5.0%)	ハシブトガラス	(4.3%)	ドバト	(6.5%)

調査地点		a	b	c	d	合計
平成9年8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221

II 事後調查結果

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）〔令和元年5月分〕

調査日：令和元年5月7日

No.	目	科	種	渡り 区分	地点別出現個体数				
					a	b	c	d	計
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥			1		1
2	ペリカン目	ウ科	カワウ	留鳥		7			7
3			ウミウ	冬鳥	10		3	2	15
4	コウノトリ目	サギ科	ダイサギ	留鳥			3		3
5			アオサギ	留鳥			2	1	3
6	カモ目	カモ科	カルガモ	留鳥	2	15	6		23
7			コガモ	冬鳥		64			64
8			ハシビロガモ	冬鳥		56			56
9			ホシハジロ	冬鳥		1			1
10			キンクロハジロ	冬鳥		11			11
11	タカ目	タカ科	ミサゴ	留鳥	2				2
12			トビ	留鳥	1				1
13	ツル目	クイナ科	オオバン	留鳥		1	6		7
14	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥	1	1			2
15			シロチドリ	留鳥			5		5
16			オオメダイチドリ	旅鳥			24		24
17			ダイゼン	旅鳥		1			1
18		シギ科	トウネン	旅鳥			34		34
19			アオアシシギ	旅鳥			2		2
20			キアシシギ	旅鳥		1	7		8
21			イソシギ	留鳥			1		1
22			チュウシャクシギ	旅鳥	3	6	31		40
23		カモメ科	セグロカモメ	冬鳥				3	3
24			コアジサシ	夏鳥	13	49	12	8	82
25		ハト目	ハト科	キジバト	留鳥			1	1
26	スズメ目	ツバメ科	ツバメ	夏鳥		9	2		11
27		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥		2		2	4
28		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	2			2	4
29		モズ科	モズ	留鳥	1				1
30		ウグイス科	センダイムシクイ	夏鳥				1	1
31		アトリ科	カワラヒワ	留鳥			2		2
32		ハタオリドリ科	スズメ	留鳥	3	2		5	10
33		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥			3		3
34		カラス科	ハシボソガラス	留鳥	1			1	2
35			ハシブトガラス	留鳥	1	3	1	1	6
合計（9目19科35種）				目数	5	5	7	5	9
				科数	10	10	12	9	19
				種類数	12	16	18	11	35
				個体数	40	229	145	27	441

注) 1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成28年度生物リスト」（国土交通省 2016）に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2016」（(財)日本野鳥の会大阪支部、2016）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）〔令和元年5月分〕

調査日：令和元年5月7日

区分	地点別出現数					
	a	b	c	d	計	
出現状況	目	5	5	7	5	9
	科	10	10	12	9	19
	種	12	16	18	11	35
出現個体数	40	229	145	27	441	
主な出現種 （個体数、 組成比率）	コアジサシ (13羽、32.5%)	コガモ (64羽、27.9%)	トウネン (34羽、23.4%)	コアジサシ (8羽、29.6%)	コアジサシ (82羽、18.6%)	
	ウミウ (10羽、25.0%)	ハシビロガモ (56羽、24.5%)	チュウシャクシギ (31羽、21.4%)	スズメ (5羽、18.5%)	コガモ (64羽、14.5%)	
	チュウシャクシギ (3羽、7.5%)	コアジサシ (49羽、21.4%)	オオメダイチドリ (24羽、16.6%)	セグロカモメ (3羽、11.1%)	ハシビロガモ (56羽、12.7%)	
	スズメ (3羽、7.5%)	カルガモ (15羽、6.6%)	コアジサシ (12羽、8.3%)	ウミウ (2羽、7.4%)	チュウシャクシギ (40羽、9.1%)	
	カルガモ (2羽、5.0%)	キンクロハジロ (11羽、4.8%)	キアシシギ (7羽、4.8%)	ハクセキレイ (2羽、7.4%)	トウネン (34羽、7.7%)	
	ミサゴ (2羽、5.0%)			ヒヨドリ (2羽、7.4%)		
	ヒヨドリ (2羽、5.0%)					

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）〔令和元年5月分〕

調査日：令和元年5月7日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	カモメ科	1	32.5%	1	カモ科	5	64.2%
2	ウ科	1	25.0%	2	カモメ科	1	21.4%
3	タカ科	2	7.5%	3	ツバメ科	1	3.9%
3	シギ科	1	7.5%	4	ウ科	1	3.1%
3	ハタオリドリ科	1	7.5%	4	シギ科	2	3.1%
6	カモ科	1	5.0%	6	カラス科	1	1.3%
6	ヒヨドリ科	1	5.0%	7	チドリ科	2	0.9%
6	カラス科	2	5.0%	7	セキレイ科	1	0.9%
9	チドリ科	1	2.5%	7	ハタオリドリ科	1	0.9%
9	モズ科	1	2.5%	10	クイナ科	1	0.4%

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	シギ科	5	51.7%	1	カモメ科	2	40.7%
2	チドリ科	2	20.0%	2	ハタオリドリ科	1	18.5%
3	カモメ科	1	8.3%	3	ウ科	1	7.4%
4	カモ科	1	4.1%	3	セキレイ科	1	7.4%
4	クイナ科	1	4.1%	3	ヒヨドリ科	1	7.4%
6	サギ科	2	3.4%	3	カラス科	2	7.4%
7	ウ科	1	2.1%	7	サギ科	1	3.7%
7	ムクドリ科	1	2.1%	7	ハト科	1	3.7%
9	ツバメ科	1	1.4%	7	ウグイス科	1	3.7%
9	アトリ科	1	1.4%				
11	カイツブリ科	1	0.7%				
11	カラス科	1	0.7%				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。